

令和3年度 第4回豊橋市総合教育会議議事録要録

令和3年11月10日 開 催

豊橋市教育委員会

第4回 総合教育会議	
日時	令和3年11月10日(水) 午後2時00分～3時30分
場所	市役所東館4階 政策会議室
構成員	浅井 由崇 市長 山西 正泰 教育長 中島 美奈子 教育委員 渡辺 嘉郎 教育委員 内浦 有美 教育委員 西島 豊 教育委員
事務局	朽名 栄治 財務部長 種井 直樹 教育部長 中村 三木也 学校教育課長 浅野 博久 財政課長 浅倉 淳志 教育政策課長  ほか 7名
その他	傍聴人 5名

議事日程

協議事項

- 1 とよはし版 GIGA スクール構想の推進に向けた取り組み状況、課題整理、今後の方向性

その他

- 1 今後の協議事項について

連絡事項

次回開催日程 令和4年2月1日(火) 15:00～

(教育部長)

ただいまから令和3年度第4回豊橋市総合教育会議を開催させていただきます。議題は、とよはし版 GIGA スクール構想の推進に向けた取り組み状況、課題整理、今後の方向性についてです。

協議事項

- 1 とよはし版 GIGA スクール構想の推進に向けた取り組み状況、課題整理、今後の方向性について

■学校教育課長 協議事項について資料説明

(教育部長)

それでは、ただいまの説明に対するご意見をお伺いしたいと思います。よろしくお願いたします。

(渡辺委員)

学校で子どもたちが実際に使っているところを見ましたが、楽しそうに使っています。内容についてもだんだんと高度な学習ができそうだと外から見て感じましたが、実際に子どもたちが ICT を使うことで効果的な学習ができているかを評価する手段はあるのですか。

また、今後タブレットを使っていくにあたり、先生たちの得手不得手があるかと思いますが、子どもたちにも得手不得手があると思います。場合によっては、授業が成り立たないこともあり得るかと思いますが、そのようなことも想定し、実態を把握できるといいと思います。

(学校教育課長)

他市町村の事例を参考にアンケート調査を考えております。

(渡辺委員)

子どもたちの理解が深まり、よりよい学習ができているという結果が表れれば、今後の GIGA スクール構想を進めていきやすいと思います。

(中島委員)

インターネット環境がない家庭にはポケット型 Wi-Fi で対応するとありますが、非常時に限らず平常時にも対応できるといいと思います。

GIGA スクールは時流に乗った素晴らしい取り組みですので、今後もうまく進めていくために、今ある課題をしっかりと丁寧に解決してほしいと思います。今後、子どもたちを取り巻く環境はますます多様なものになります。多様性に対応しながら、子どもたちを誰一人取り残すことなくこの取り組みを進めていくためには、実態の把握や課題分析など、積極的かつ継続的なリサーチが必要になると思います。

一方、ICT の活用については全国的に是非論があります。視力・体力の低下や生活リズムの乱れなどが問題視されている中で、それらも含めて解決できる仕組みが構築されたいと思います。

(西島委員)

タブレットが導入されたばかりですので、これからデータ収集やさまざまな検証を経て議論を煮詰めていくことになるかと思いますが、ICT でできることがだんだんとわかってきましたので、質の高い教育としてどこを目指すのかを先進的に考えていってほしいと思います。そうすれば、自ずとそのために何が必要なのかが見えてきますので、タブレットを配った後は回線などのハード面をどう整備するか、そのためにどう予算組みをし、いつ執行するかといったところが、よりスピードをもって具体的な形にできると思います。それこそ、とよはし版 GIGA スクール構想が他市と比較しても優位性をもって進めていけると思いますので、そのあたりを押さえていただきたいです。

(内浦委員)

子どもたちの環境を整えることが大人たちの役割ですので、ネットワーク環境については早急に整備を進めてほしいと思います。

(教育長)

タブレットを配って活用する、というところまではいいのですが、先日のチャットによるいじめの問題のように想定を超えるものが出てきており不安を感じます。この問題をタブレットを使う子どもに対する道徳教育の問題として安易に捉えると、学校教育で解決すべきものとなってしまいますが、そうではありません。当然、学校でも道徳教育等をするわけですが、いかに家庭の中で子どもたちを見て、支えていくかを考えることが大切です。

一方で、現在、子どもたちにはタブレットを貸与していますが、将来的に購入する形も考えられます。その場合に、各自が自由にアプリを入れることなどを学校で制限するわけにもいかず、学校では管理ができないという可能性が数年後には起こり得る、というのは非常に困った問題です。

(内浦委員)

GIGA スクール導入時にも紹介させていただきましたが、海外の事例では、親御さん向けの研修があり、これを受けなければならないというものがあります。研修会の実施や PTA 総会の後などに保護者に対してこちらの思いを伝えたり、質問に答えたりする時間を設けてはどうでしょうか。

(教育長)

保護者への研修は非常に大切だと感じていますが、研修会への参加や PTA 総会の後に保護者に残るよう強制することはできませんし、研修を受けなければタブレットを渡さないというわけにもいきませんので、難しいところです。

(渡辺委員)

学校教育のあり方が変わってきており、学校と家庭がシームレスになっています。今は学校だけで教育する時代ではなく、今後の学校は、寺子屋のように各々が自由に勉強する場所として、先生が教える場所ではなくなっていくのかもしれませんが、タブレットの扱いは、学校で一斉に使用するときには学校で管理しなければならないと思いますが、個人のものであれば自由なものになっていくと思います。

(教育長)

子どもたちの情報モラルをどのように育てていくのがいいのでしょうか。子どもは興味があるものに手を出してしまうものです。

(内浦委員)

学校でタブレットを使っている様子を見ていますと、YouTube を閲覧する機会や、バナー広告などを目にする機会が多くありますが、そのひとつひとつが子どもの興味につながっていると思います。

家では YouTube を見せていないので学校でも YouTube を使わないでほしい、という保護者の声はよく聞きます。

(渡辺委員)

タブレットだけを制限してもスマホなどを持っていれば同じですし、インターネットとはあらゆるものにつながっているものですので、教育委員会がこれは良い、これは悪いと言っても切り離せるものではありません。とはいえ、手をこまねいているわけにもいきませんが。

(教育長)

チャットのいじめやわいせつ動画の問題が出た時に、GIGA スクールで貸与されたタブレットによってという部分がメディアで前面に出ました。そうすると教育委員会が悪いという話になってしまいます。

(西島委員)

問題について議論はできますが、責任の所在はどこにあるか考えると対応が難しい問題です。社会現象として問題はどこかで起きてしまうものだと思います。教育現場とは違いますが、民間の会社で仕方なくネットサーフィンを規制するところがあります。

(渡辺委員)

世の中に出回ってしまったものは規制しきれものではありませんし、思春期の子どもたちが興味を持てばやめさせることは難しいです。そうすると飽きるまでやらせる他ないとも思いますが、とにかくその子にとって興味があるものを他に作るしかありません。世の中にはもっと面白いものがあるということを周りの大人たちが教えてあげなければならないと思います。

(中島委員)

一部の問題では性教育についても挙げられていますが、わいせつ動画等についてもそれを性教育としてどう捉えるかを考えるなど、タブレットだけの問題にするのではなく、より大きな問題として捉えることができたらと思います。

昔あったテレビの是非論のように、タブレットの使い方の問題なのに存在が悪となりつつある風潮ですが、使い方ばかりを取り締まっていたら先に進まないと思います。

(渡辺委員)

勉強とは知らないことを知ることができる楽しいものであり、学校はそれを子どもたちに教えなければいけません。教科書の中だけの勉強は楽しいものではありませんが、

GIGA スクールでインターネットにより外とつながることで教科書の外の本当の世界が見えた時に本来の勉強の楽しさがわかるはずです。途中、脇道にそれることもあるでしょうが、本当に自分がやりたいこと、勉強したいことはこれなんだ、ということを経験して子どもたちに見せてあげることが大切です。

YouTube もちゃんと勉強に使ってもらえればいいわけで、百聞は一見に如かずということで間違いなく深い学びになりますし、GIGA スクールによって今後知識が先行するような学び方になっていくと思います。ただし、学校で体験するというのも大事ですので、リアルな世界で生きるための力を教えることがこれからの教員の役割となるかもしれません。

(教育長)

豊橋市は体験を重視した教育を進めてきましたが、例えば、調べ学習の際には、子どもたちは学校図書館や中央図書館などに足を運んでいました。それが今は手元のタブレットで山ほどの情報を得ることができますので、タブレットをうまく使えばこんなにいいものはないと思っていますが、子どもの学びの方向を正しく向けることが非常に難しいです。

(渡辺委員)

インターネットには誤った情報が大量にあります。子どもたちにはその区別がつかないので心配です。コロナワクチンの話で例えると、SNS などの一部のツールでしか情報を得てない人はワクチンを打たない傾向にあります。そこで思い込んだ状態でネットで検索すると、欲しい情報として偏ったものばかりを得てしまい、それが世の中の正しいことと思ってしまうようです。

タブレットをうまく使えばこんなにいいものはないというのは間違いありませんので、否定することはできないと思います。子どもたちに正しい使い方を教え、興味の方向を正しく向けながら、バーチャルとリアルの区別をつけて現実の世界を教えることが大切です。

教員のタブレットの使い方については、得意不得意な人がいて使い方はさまざまかと思っています。授業に全く使えないというのはいけません、必ず使わなければならないと考えるのではなく、無理なく効果的に使ってほしいと思います。

(中島委員)

資料にあるとおり、学校で ICT を使って授業力が向上したという効果が表れたことは嬉しく思います。元々授業力がある方は ICT を使っても授業力があるでしょうから、行き詰った先生の助けになってほしいと思います。

また、子どもたちの方が早く順応しますので、いずれ子どもから学ぶ形となるかもしれません。ある子が引っ張ってクラスの子に共有するようなやり方もあり得るのかなと思います。

(西島委員)

児童生徒の中から ICT 先生・委員長といった子が出てくるのかもしれませんが、好きな人は自分から学んでいきますので、得意不得意な人で格差はますます大きくなっていくと思います。そんな時に得意な人をピックアップして学級委員などの延長で ICT 委員を作れば、その子の自信にもなりますし、子どもたちだけで得意な子が不得意な子を助けてあげられるようないい循環の仕組みができるかもしれません。

先ほどの問題についても子どもたちが考えることで解決できるかもしれませんので、ルール作りなども子どもたちが主体的にできたらいいと思います。

(内浦委員)

わいせつ動画などは見たい子が見ればいいという意見もありますが、私は、そこから犯罪に巻き込まれたり、いじめなどのトラブルが起こったりすることを、大人がルールを作ることで防ぐことができるのであれば、どうしても防ぎたいと思っています。

台湾のオードリー・タンさんの話ですが、彼女は信頼し合うための透明性というものをすごく心がけており、彼女が会議やインタビューなどで発信した情報は全てオープンになっています。

話を戻しますが、チャットのいじめやわいせつ動画などの問題は、当然保護者はすごく不安に思っていて、さらには学校の先生や教育委員会の中でも同じで皆が不安に思っていることです。そして、どこまでが教育の範囲なのかと、責任の押し付け合いになってしまうと余計な不安が生まれます。そうなってしまったときに、ぜひ、とよはし版 GIGA スクールは、皆が腹を割って不安に思っていることを共有し合える場になってほしいと思っています。方法論を共有するのではなく、不安に思っていることを伝え、認め合い、家庭にできること、学校にできること、行政にできることを持ち寄って話し合うことができたと思います。

私は、これからの時代は WEB との付き合い方は人づくりの根幹になり得る部分だと思っています。そこで、とよはし版の GIGA スクールは、他市のように特殊ですごい取り組みばかりをするのではなく、豊橋市では、皆で子どもたちのために WEB に向き合っているということをして 1 つの柱として出していってもらえたら嬉しく思います。

(市長)

GIGA スクール構想は教育の大きな転換期です。学校のあり方や教員の役割などが大きく変化し、人づくりに向けて非常に重要な時を迎えていると感じています。子どもたちの生きる力を育むことが重要であり、それにはリアルとバーチャルのバランスが大事ですが、タブレットはリアルで体験できないことなどを補完するのに非常に有効です。情報に関するリスクに関しては、昔から見てはいけなないテレビ番組などもありましたが、YouTube にも良いものはたくさんありますし、何より大切だと思うのは、子どもたちに情報の取捨選択力と判断力をどのようにつけていくかということです。

また、人間にとって大事なものは客観性をもつことです。子どもたちには、インターネットでは全てを見られているという意識で、自分を律することができるようになってほしいと思います。

いずれにしても、教育委員会にしっかり取り組んでいってほしいのは、とよはし版 GIGA スクールの将来像をよく考えることです。その将来像に向けて、タブレットやデジタル教科書をどのように活用するか、回線整備をどう整備するか、全てが関連してきます。そして、それをどう評価していくかが重要ですので、客観的に示せる指標を作り、適切なときに評価ができるよう、試行錯誤しながらチャレンジしてほしいと思います。

あくまでタブレットは理解を深めるための単なる道具です。あまり GIGA スクールというものに囚われないでほしいのですが、とよはし版の GIGA スクールとありますので、生きる力をもち、優しさと強さのあるトータルの人間力の高い子どもたちを豊橋独自のやり方でどのように育てるのか、重要な課題ですのでしっかり考えていってほしいと思います。

最後に、豊橋の子どもたちには、バーチャルのことしか知らないような子ではなく、学

校やのびるん de スクールなどでさまざまな実体験をしてリアルのこともよくわかった、世の中を支え、引っ張ることができる人材となってほしいと思っています。とよはし版 GIGA スクールを大きなきっかけとして豊橋市の人づくりを進めていきたいと思しますので、よろしくお願いいたします。

連絡事項

- ・今後の協議事項
- ・次回開催日程 令和4年2月1日（火）15：00～

(教育部長)

以上で、令和3年度第4回豊橋市総合教育会議を終了します。ありがとうございました。